

氣よくなる事有、雨ふりて後なるは晴る、晴ておきなるは雨、

〔三養雜記〕雨の長短を知る歌、雨のながみじかを知る歌に

子はながし丑は一日寅は半卯は一時とかねてゑるべし、この順に十二時ながら數ふればゑる、なり、この歌のゑらべよからずとて、後水尾上皇の御製に、よみ直させたまひしといひ傳ふるに、

曇りなば雨とさだめよふりふらずちらくちらくと天氣なりけり曇りなば長雨をいふふりふらず日を経ざる雨ちらく中日ほど天氣天氣なり卯未亥卯未亥とくるなりあるひは云、風を占にもよくあたれりといへり、

雪

雪ハユキト云フ、大雪ハ豊年ノ佳瑞ト稱シテ之ヲ賞ス、初雪ノ日ハ群臣參内ス、之ヲ初雪ノ見參ト云フ、此日王臣ニ物ヲ賜フ、又深雪ノ日ニハ諸陣ノ見參ヲ取レリ、並ニ後世行ハレズ、又雪ヲ以テ巖又ハ島、其他雜物ノ象ヲ作り、中世ニハ雪山ヲ作ルノ戲アリ、

〔倭名類聚抄風雪〕雪、説文云、雪冬雨也、五經通義云、陽則散爲雨水、寒則凝爲霜雪、皆從地而昇者也、

又作霽音切、和名由木

〔箋注倭名類聚抄風雨〕按、説文、霽凝雨説物者、廣韻、雪凝雨也、玉篇同、皆不云冬雨、雪字非、可訓冬雨、

此冬字疑、草書凝字壞存半體也、又此所引無説物者字、蓋陸氏本於説文、而節説物者三字、唐韻、廣韻依此、故亦只云凝雨也、然則作説文恐非、釋名、雪綏也、水下遇寒氣而凝、綏々然也、略隋書云、五

經通義八卷、梁九卷、唐書云、九卷、漢劉向撰、今無傳本、北堂書鈔、初學記、太平御覽引、皆作寒氣疑以

名稱